

第6学年3組 社会科学学習指導案

平成29年10月25日(水) 第3時限 6の3教室 指導者 新井 健祐

1 単元 明治10年、西郷隆盛の苦悩と決断(8時間完了)

(1) 構 想

6年3組の子どもたちは、本校の委員会活動であるありんこや1年生とのペア交流を通して、最高学年としての自覚が芽生えつつある。しかし、学芸会の練習や係活動、そうじの時間の行動を見ると打算的であり、自分本位な姿が見え隠れする。授業においては、元気で意欲的な挙手が見られるが、自分の考えを主張する場面になると、積極的な姿勢が失われる傾向にある。以上を踏まえ、問題を自分事としてとらえ、自分の意見を構築し、自信をもって自分の意見を伝えたり、まわりにいる人々と支え合い理解し合って生活したりできる子どもになってほしいと願い、教材を模索した。

そんななか、1学期に楠木正成を取り上げたところ、その生き様に興味を示し、深く追究する子どもたちの姿があった。また、歴史にふれ、その面白さを感じさせたいという思いで教室に歴史関係の本や漫画を持ち込み、明治の人物の意識調査「好きな人物ベスト5」を行った。その結果は、1万円札の肖像画の福沢諭吉を推す声が多かった。次に挙げられた人物が西郷隆盛であり、子どもたちの意識の中に息づく存在であることが分かった。こうした子どもたちをとらえたとき、一人の人物や歴史的事象に焦点を当てることで、自分を歴史上の人物に同化させ、生き生きと自分の意見を伝えるとともに、その人物を通じて、その時代の歴史的事象をとらえ、生き様を学ぶことができるのではないかと考えた。

西南戦争を描いた錦絵と出会った子どもたちは、西郷隆盛が西南戦争に参加した事実を知り、「明治政府をつくった一人である西郷がなぜ抵抗しているのか」、「なぜ武士の味方をしたのだろうか」など疑問を抱き、その理由を明らかにしようとするだろう。そのような気づきをかかわらせることで、「なぜ西郷隆盛は新政府と戦ったのだろうか」という問いが生まれるだろう。

問いをもった子どもたちはまず、それぞれに「西郷隆盛は新政府に恨みがあった」、「西郷隆盛は新政府の政策に納得していなかった」など、自分の予想をつぶやき、予備討論的な話し合いを進めるだろう。教師は子どもたちの自由な考え方を受け入れ、意見を伝えることの楽しさを感じてもらえるよう支援したい。この時点で子どもたちは自分の立てた仮説が正しいかどうか、西郷隆盛の生きざまを追究して検証しようとするだろう。西郷隆盛についての追究は、学校図書館、学級文庫、りぶらなどで伝記や歴史資料、または読みやすい歴史マンガを活用する。追究する視点を明らかにしてノートに整理しやすいよう、5W1Hを使うよう指示する。また、追究時にはつねにノートへの朱書きとともに、個人面接を行い、つまずきやとまどいなど、困り感を解消し、自信をもたせていく支援を施す。「西郷隆盛についてくわしく調べたい」と願った子どもたちは「西郷隆盛が征韓論で新政府と争ったこと」や「西南戦争でいたし方なく戦ったこと」など、西郷隆盛に関する事実や「新政府が西郷隆盛をどう思っていたか」や「武士の特権が廃止されたこと」など、まわりとの関係を知っていくだろう。そうする中で人柄や考え、思いに触れ、西郷隆盛がなぜ新政府と相まみえることになったか、その理由をとらえていくだろう。しかし、その中で、西郷隆盛が死に至った状況を知った子どもたちは、「戦わなければならないのだろうか」という疑問を生み出すだろう。その判断は大きく2つの立場、「戦わなければならない」、「戦わなくてもよかった」に分かれることになるだろう。2つの立場に分かれて相互批正を行うことによって、客観的な歴史認識を形成していきたい。子どもたちはその後、追究活動で得た知識を根拠として自分自身の意見を再構築するだろう。「戦わなければならない」側は「特権をうばわれた武士の不満を新政府に伝えたかった」、「仕事のなくなった武士の居場所をかくほすためにどうしても戦いたい」などの意見が述べられるだろう。一方「戦わなくてもよかった」側は「武器でも人数でも新政府の徴兵制にはかなわないからやめたほうがよかった」、「武士が勝ったとしても仕事はない」などの意見が述べられるだろう。そして、追究で得た視点が明らかになったところで、さらに意見を焦点化するために、「戦わなくてもよかったという思いもあったはずなのに、なぜ止められなかったのか」と2次発問をする。それを受けた子どもたちは、「武士側、新政府側両者の思いを汲んで戦わざるをえなかった」、「美田を買わずという西郷家の家訓から戦うことしか選択できなかった」と、なぜ西郷隆盛は西南戦争を戦ったのか、その真意に迫っていくだろう。以上の過程を経て、西南戦争という戦いを通して日本が近代化へと向かったことや西郷隆盛のように、まわりの人々の幸せを第一に考えた人物がいたことを学んでいくだろう。

(2) 目 標

- 西郷隆盛について関心をもち、疑問に思ったことや気づいたことを共有することで生まれる問いを進んで追究しようとする。(関心・意欲・態度)
- 西郷隆盛の人生について、その事実や関係などを多角的にとらえ、それらを根拠に自分の意見を構築し、自信をもって自分の意見を伝えることができる。(思考・判断・表現)
- 様々な文献やインターネット、教師自作の資料を読み解き、西郷隆盛の人生についての情報を収集し、整理することができる。(技能)
- 西郷隆盛を通して、幕末や新時代に生きた人々の思いに触れ、近代化へと時代が移り変わった背景を理解することができる。(知識・理解)

(3) 単元計画

○個人追究 ◇かかわり合い

子どもの活動	教師支援						
<p>明治時代で好きな人物が西郷隆盛</p> <p>歴史上の人物の勉強は楽しいね</p> <ul style="list-style-type: none"> 西郷隆盛は何をやった人なのかなあ <p>錦絵を見て、気付いたことを伝え合うよ ◇</p> <ul style="list-style-type: none"> 西郷隆盛は新政府側ではないの <ul style="list-style-type: none"> なぜ西郷隆盛は新政府と戦っているの 明治時代は平和なの なぜ西郷隆盛が新政府と戦っているのか知りたいよ <ul style="list-style-type: none"> 新政府とケンカした 新政府に追い出された 本当のことがわからないから調べてみたいね <p>西郷隆盛についてくわしく調べたいよ</p> <p>なぜ西郷隆盛は新政府と戦ったのかな ⑤◇</p> <table border="1" data-bbox="188 728 869 1198"> <tr> <td data-bbox="188 728 502 952"> <p>【新政府とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい国づくりを進めるために武士の特権をなくしたよ 身分もみんな同じだよ </td> <td data-bbox="502 728 869 952"> <p>【西郷隆盛とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> 薩摩藩の武士で学制や徴兵制など、新政府で新しい国づくりにこうけんしたすごい人だよ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="188 952 502 1198"> <p>【新政府の人では】</p> <ul style="list-style-type: none"> 征韓論という外国に対する考え方の違いから仲の良かった大久保利通と対立して新政府をさったよ 新政府はひどいよ </td> <td data-bbox="502 952 869 1198"> <p>【西南戦争とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦力は明らかに新政府が上なのに、なぜ戦ったの 西郷隆盛は戦いに乗り気じゃないよ 戦うべきではないよ </td> </tr> </table> <p>立場を追われた武士が西郷隆盛をかつぎ上げ、新政府に反発して西南戦争が起こったことが分かったよ</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦力の差は明らか、それでもなぜ戦ったのか 新政府は西郷隆盛に対してひどいから戦うべき 西郷隆盛は新政府にこうけんしたから戦うべきではない <p>戦わなければならなかったのか話し合いたいよ ①◇</p> <p><○戦わなければいけない> <×戦わなくてもよかった></p> <table border="1" data-bbox="172 1444 869 1646"> <tr> <td data-bbox="172 1444 502 1646"> <ul style="list-style-type: none"> 特権がなくなった武士の思いを伝えたいよ 新政府は武士の身分をなくしたいので都合がいい </td> <td data-bbox="502 1444 869 1646"> <ul style="list-style-type: none"> 戦力に明らかな差があるよ 新しい国づくりが始まっているのに時代がもどってしまうよ </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 武士はどうなるの 止められないの <p>なぜ戦ったのか、本当の理由が分かってきたよ</p> <ul style="list-style-type: none"> 武士側の視点で考えたら戦いを望んでいた。新政府側の視点で考えても戦いを望んでいた。両者の思いを知る西郷隆盛としては止めること叶わず、戦うことでしか決着を見いだせなかった。 西郷家には「美田を買わず」という家訓があった。西郷隆盛は自分のことよりもまわりを重んじていたので、武士とともに戦う道を選んだ。 西南戦争は武士の最後のプライドをしめした戦いだったんだ。 <p>西郷隆盛はどのような人物だったのかまとめるよ ①</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意志のある人 人のためにつくした人 	<p>【新政府とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい国づくりを進めるために武士の特権をなくしたよ 身分もみんな同じだよ 	<p>【西郷隆盛とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> 薩摩藩の武士で学制や徴兵制など、新政府で新しい国づくりにこうけんしたすごい人だよ 	<p>【新政府の人では】</p> <ul style="list-style-type: none"> 征韓論という外国に対する考え方の違いから仲の良かった大久保利通と対立して新政府をさったよ 新政府はひどいよ 	<p>【西南戦争とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦力は明らかに新政府が上なのに、なぜ戦ったの 西郷隆盛は戦いに乗り気じゃないよ 戦うべきではないよ 	<ul style="list-style-type: none"> 特権がなくなった武士の思いを伝えたいよ 新政府は武士の身分をなくしたいので都合がいい 	<ul style="list-style-type: none"> 戦力に明らかな差があるよ 新しい国づくりが始まっているのに時代がもどってしまうよ 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの学習、生活の実態を把握し、それが生きるよう単元構想に仕組む。 西郷隆盛と新政府が対立していることが分かる西南戦争の錦絵を提示する。 錦絵を見て気付いたことを伝えるよう指示する。 気付いたことを伝え合う中で気になることを話し合う時間を設け、単元を貫く課題を設定する。 子どもたちが意見を言う際、極力受け入れ、自由な発想や発言に対する意欲を高められるよう支援したい。 学校図書館やりぶら、または自作資料を学級文庫コーナーに設け、西郷隆盛に関する情報がすぐに閲覧できる環境を整える。 追究意欲が持続するよう、追究の視点を与える。 追究意欲が向上するよう、毎時ノートチェックや面接を行い、追究を認めたり、褒めたりする。 追究したことが分かり、達成感をもたせるために、学級で年表をつくって掲示する。 追究して得た情報を共有するために、ノートを掲示する。 追究時のノートやつぶやきから西郷隆盛が戦うべきだったかどうかの是非を考える時間を設ける。 追究して得た情報を根拠に主述のはっきりとした意見をつくるよう指導する。 追究で得た情報を根拠として自分の意見を言うことができている子どもを称賛し、発言を促す。 自分の意見を伝えるだけでなく、異なる立場の意見に質問し、内容を深める。 話し合いが深まったところで「西南戦争は止められなかったのか」と2次発問し、西郷側の考え、新政府側の考えを擦り合わせて合意させる時間を設ける。 西郷隆盛の生きざまや西南戦争の意義を理解している感想を意図的に指名し、学びが明確になるようポイントとなる言葉を板書する。 単元の最後に西郷隆盛について新聞にまとめ、掲示する。
<p>【新政府とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新しい国づくりを進めるために武士の特権をなくしたよ 身分もみんな同じだよ 	<p>【西郷隆盛とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> 薩摩藩の武士で学制や徴兵制など、新政府で新しい国づくりにこうけんしたすごい人だよ 						
<p>【新政府の人では】</p> <ul style="list-style-type: none"> 征韓論という外国に対する考え方の違いから仲の良かった大久保利通と対立して新政府をさったよ 新政府はひどいよ 	<p>【西南戦争とは】</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦力は明らかに新政府が上なのに、なぜ戦ったの 西郷隆盛は戦いに乗り気じゃないよ 戦うべきではないよ 						
<ul style="list-style-type: none"> 特権がなくなった武士の思いを伝えたいよ 新政府は武士の身分をなくしたいので都合がいい 	<ul style="list-style-type: none"> 戦力に明らかな差があるよ 新しい国づくりが始まっているのに時代がもどってしまうよ 						

2 本時の学習指導（7／8時間）

（1）目標

- ① ひとり調べをもとに西郷隆盛は戦わなければならなかったのかどうかの話し合いに積極的に参加しようとする。
- ② 様々な視点の意見を受け入れる中で、西郷隆盛の生き方、西南戦争の意義について理解することができる。

（2）児童の実態

- ① 本学級の子どもたちは、授業に積極的な児童と消極的な児童の差がある。消極的な児童の中には「手を挙げたい」と思っている子も多いが「恥ずかしさ」や「間違えたときの不安」などからなかなか殻を破れないでいる。
- ② 子どもが「自ら考え、生き生きと学び合う」ための手だて
 - ・自信をもって意見を伝えることができるよう、ノートに朱書きを入れる。
 - ・話し合いの内容を充実させ、理解を深めるために、質問する時間を設ける。
 - ・座席表を用いた意図的な指名を行い、意見を焦点化する。

（3）準備

- ①児童 教科書、資料集、ノート、歴史の本、座席表
- ②教師 教科書、資料集、ノート、座席表

（4）展開

前時までに子どもたちは「西郷隆盛は戦うべきだったのだろうか」という課題に対する意見を構築している。それぞれの考えは教室に掲示したり、見合う場を設定したり、座席表として配付したりすることで互いの意見が把握できるようにした。

話し合いでは「戦うべき」側から「武士は給料や刀など、特権をうばわれ、立場がなくなっていたから」、「新政府の方針だと、国力の充実が優先され、武士がいなくなってしまうから」、「暗殺計画や火薬の無断持ち出しなどがあり、新政府の勝手が許せないから」、「新政府は一部の人間だけで政治を行っているから」など、新政府に対する武士の不満や新政府の政治を根拠とした意見を言うだろう。

一方、「戦うべきではない」側は「戦力に差があり、勝ち目がなさそうだから」、「国力の充実を優先する新政府の方針のさまたげとなるから」、「勝ったとしても武士に残された未来が考えられないから」、「武士に払う給料はないし、時代を考えて刀も必要なくなったから」など、新政府の力量や今後の時代の展望を根拠として意見を言うだろう。

そして、話し合いの内容を深め、理解力を高めるために、立場の異なる意見に対して質問し合う場を設定する。「戦うべき」側からは「国力を充実させる前に武士の今後を話し合うべきではないか」、「戦うべきではない」側は「武士がいなくなってしまうことはあるのか」などの質問が出るのが予想され、その質問に答えていくことで当時の背景もつかむことができるだろう。

互いの立場の意見がでそろったところで、「西南戦争は止められなかったのだろうか」と2次発問し、西南戦争という歴史事象について考えさせたい。子どもたちは先の話合いをふまえて「武士の思いをそれでも伝えたかったから」や「新政府としては新しい国づくりを進めたかったから」といった意見を言うだろう。最後に、本時をふりかえって感想を書く時間を設定する。子どもたちからは、「武士の不満を解消させるためや新政府の新しい国づくりのためには西南戦争は避けられず、西郷隆盛はその間にあってやむを得ず戦った」という感想が出て、西郷隆盛の存在や西南戦争の意義に気付いていくことだろう。

戦わなければならなかったか話し合うよ

【かかわり合い】

※立場と根拠を明らかにして一人一つずつ意見を発表するよう指示する。

<戦わなければいけない>

- ・ 武士は給料や刀など、特権をうばわれ、立場がなくなっていたから。
- ・ 新政府の方針だと、国力の充実が優先されるから。
- ・ 暗殺計画や火薬の無断持ち出しなどがあり、新政府の勝手が許せないから。
- ・ 新政府は一部の人たちだけで政治を行っているから。

<戦うべきではない>

- ・ 戦力に差があり、勝ち目がなさそうだから。
- ・ 国力の充実を優先する新政府の方針のさまたげとなるから。
- ・ 勝ったとしても武士に残された未来が考えられないから。
- ・ 武士に払う給料はないし、時代を考えて刀も必要なくなったから。

×

※追究をもとに意見を発表できた児童を称賛する。

※意見を分類して板書し、視点を明らかにする。

※自身と似ている意見に付け加えたり、他者の意見をもとに新たな意見を発表したりする児童を称賛する。

〔質問〕

- ・ 国力を充実させる前に武士の今後を話し合うべきではないか

×

- ・ 武士がいなくなって困ることはあるのか

↓

西南戦争は止められなかったのだろうか

- ・ 武士の思いをそれでも伝えたかったから
- ・ 新政府としては新しい国づくりを進めたかったから

※机間指導を行い、話し合いをふまえて意見を書いている児童のノートに朱書きを加える。

※話し合いの内容をふまえ、自身の意見を発表できている児童を称賛する。

まとめ

◎武士の不満を解消させるためや新政府の新しい国づくりのためには西南戦争は避けられず、西郷隆盛はその間に入ってやむを得ず戦った

(5) 評価

①自身の意見を言ったり、立場の異なる意見を聞いたりするなど、西郷隆盛は戦うべきかどうかの話し合いに積極的に参加することができたか。(活動2・3から)

②西郷隆盛は戦うべきかどうかについての話し合いやふりかえりから、西南戦争や明治初期に対する自身の考えを深めることができたか。(活動4から)

時間	子どもの活動	教師の支援
前時までに子どもの意識が本時の課題に向いているので、あえて導入は行わない。		
把握 (2)	1 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px auto; width: fit-content;">西郷隆盛は戦うべきだったのだろうか話し合おう</div>	・本時の学習課題を板書する。
展開 (33)	2 意見を話し合う。 <戦うべき> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・武士は給料や刀など、特権をうばわれ、立場がなくなっていたから。 ・新政府の方針だと、国力の充実が優先されるから。 ・暗殺計画や火薬の無断持ち出しなどがあり、新政府の勝手が許せないから。 ・新政府は一部の人たちだけで政治を行っているから。 </div> <戦うべきではない> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・戦力に差があり、勝ち目がなさそうだから。 ・国力の充実を優先する新政府の方針のさまたげとなるから。 ・勝ったとしても武士に残された未来が考えられないから。 ・武士に払う給料はないし、時代を考えて刀も必要なくなったから。 </div> 3 あらかじめ控えておいた内容を質問する。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの隊形に移動するよう指示する。 ・立場と根拠を明らかにして一人一つずつ意見を発表するよう指示する。 ・朱書きされたノートを見るよう伝える。 ・追究をもとに意見を発表できた児童を称賛する。 ・意見を分類して板書するなど、児童の意見に対して評価する。 ・児童の意見に対して問い返し、追究した学習内容が深まるようにする。 ・自身と似ている意見に付け加えたり、他者の意見をもとに新たな意見を発表したりする児童を称賛する。 ・意見の違いが分かるように分類して黒板に板書する。
まとめ (10)	4 本時を振り返って気づいたことや感じたことを発表する。 ・士族側の視点で考えたら戦いを望んでいた。新政府側の視点で考えても戦いを望んでいた。両者の思いを知る西郷隆盛としては止めること叶わず、戦うことでしか決着を見いだせなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の成長、友だちのよさに気付くことができるよう、本時を振り返って気付いたことを発表し合う場を設ける。 ・机間指導を行い、話し合いをふまえて意見を書いている児童のノートに朱書きを加える。 ・話し合いの内容をふまえ、自身の意見を発表できている児童を称賛する。